

「経営を受け継いで－女性弁護士が見た
“働く”と“生きる”のリアル」
～等身大で語る、地域と経営、そして女性の視点～
愛媛銀行社外取締役
田所法律事務所 田所 知佳所長に聞く



愛媛で法律事務所を営む田所さんは、家業を継いで弁護士として活躍する傍ら、当行の社外取締役など多面的な役割を担っています。

今回のインタビューでは、「働く」と「生きる」をテーマに、キャリアの選択、地域での暮らし、そして女性として経営に関わる視点について、率直にお話を伺いました。実体験に基づく等身大の言葉から、自分らしい歩み方を考えるヒントが見えてきました。

（聞き手：ひめぎん情報センター 調査役 川久保公代）

【第1章】家業の継承とキャリアについて

川久保：まず、家業継承を決意された背景について教えてください。

田所：子供の頃から、父が弁護士として生き生き働く姿を見ていて、自然と興味を持っていました。京都大学に進学した後も、帰省するたびに地元・愛媛の温かさを感じていましたので、いつか地元に貢献したいという思いが強くなっていきました。父の引退を機に、家族の思いや自分の気持ちを整理した結果、「私が継ぐのが一番後悔しない」と思い、決意しました。



川久保：その決断に対して、ご家族を含め周囲の反応はいかがでしたか？

田 所：経験が浅い中での継承だったので、驚かれた方もいたと思いますが、ほとんどの方が温かく応援してくれてありがたかったです。父は前々から「厳しい世界だから…」とは言っていましたが、決断すると、家族は全力でサポートしてくれました。

川久保：継承当初、周囲からの“期待”や“プレッシャー”は感じましたか？

田 所：はい、経験が浅い中で責任は重く、プレッシャーはかなりありました。でも、事務所のメンバーや関係者の皆さんが本当に様々な面で支えてくださって、恵まれていたと思います。

【第2章】地域で働く女性として

川久保：地方都市で弁護士として働く中で、女性であることを意識した瞬間はありますか？

田 所：「話しやすい」と言っていたことが多くですね。もちろん、男性でも話しやすい方はたくさんいらっしゃいますが、「女性に相談したい」というニーズがあるのも事実で、そうした方のお役に立てるのは嬉しいです。

川久保：地域で「若い女性経営者」というだけで、驚かれることもあるのでは？

田 所：はい、継いだ当初は驚かれることも多かったです。慣れない中で、同年代のいない集まりに出るのはかなりエネルギーが要りました。でも、毎年参加するうちに、少しずつその場に馴染めてきたように感じています。

川久保：名刺交換や初対面の場合は、どんな反応が多いですか？

田 所：今でも「なぜ、こんなに若い女性がここに？」という表情をされることはありますね。でも、「父の代からのご縁で…」と説明すると納得してくださって、「頑張ってるね」と優しく声をかけていただくことが多いです。

川久保：同じ立場の女性たちと、支え合うような繋がりがありますか？

田 所：はい。大学や大学院、修習時代に親しくなった友人たちと、今でも連絡を取り合っています。裁判官や弁護士として働いている仲間もいて、近況や悩みを話すことで励まされたり、良い刺激を受けたりしています。

【第3章】働き方・暮らし方のリアルについて

川久保：普段のお仕事とプライベートのバランスは、どのように意識されていますか？

田 所：継いだ当初は「支えてくれる皆さんのために全力で応えなければ」と力が入りすぎて、休日は疲れて泥のように眠る日々でした。

頑張る時期があるのは良いことですが、無理が続くと心身に影響が出るかもしれ

ません。今も仕事とのバランスを模索中ではありますが、最近はやや、長期的な目線でプライベートも大切にしたいと思える余裕が出てきました。父の友人家族に誘われて、サクソとピアノで演奏会に出ようという話もあり、今はそれが楽しみです。

川久保：仕事が忙しい中でも「自分を保つ」ために、大切にしていることはありますか？

田 所：将来のことばかり考えて、理想と現実のギャップに自信をなくすこともあります。そんな時は、これまでの私を知ってくれている家族や友人と過ごす時間が心のバランスを整えてくれます。取り留めのない話を聞いてくれる存在には、本当に感謝しています。

川久保：忙しい中で自分を保つために「自分にかける言葉」ってありますか？

田 所：「全部が全部叶うわけじゃないけど、やりたいと思っていたことは、案外叶ってる。だから、大丈夫」と思うようにしています。焦らず、コツコツやればいいと、自分に言い聞かせています。

川久保：家庭やプライベートのサポート体制で、工夫されていることはありますか？

田 所：共働きなので家事は分担しています。欧米では役割を明確に分けて干渉しない、日本ではあいまいさを残して助け合う傾向があると聞いたことがあります。どちらにも良さがあるので、うまく取り入れたいと思っています。

川久保：働く女性にとって、環境づくりをする上でコミュニケーションが大切だと思うのですが、何か工夫されていますか？

田 所：なるべく溜め込まずに話すようにしています。話してみると、自分が気づいていなかったことや、相手がしてくれていたことに気づけることもあって。そういうやり取りの中で、感謝の気持ちも生まれますね。



【第4章】女性リーダーとしての気づきについて

川久保：「女性だから」期待されることや、逆に戸惑うことはありますか？

田 所：「女性だから」と期待されていると感じるのは、愛媛銀行の社外取締役役に選任いただいたことですね。政府も女性活躍を推進していますし、今後ますます女性にリーダーシップが求められる時代になると思います。一方で、法曹界では性別に関係なく仕事ができていると感じていて、「女性だから」と戸惑った経験はあまりありません。TVドラマのモデルにもなられた三淵嘉子さんのような多くの先輩方が道を切り開いてくださったおかげだと思います。

川久保：若い女性が「リーダー」になることについて、社会はどう変わってきたと感じますか？

田 所：ある支店長の方が「女性行員は自分にはない視点を持っていて尊敬している」と話

されていたのが印象的でした。意欲や能力のある女性がきちんと評価される風土が、少しずつ広がっていると感じます。

また、「若い」ということは経験が少ない反面、柔軟な発想で物事を進められる強みもあると思います。ダイバーシティを重視する企業も増え、リーダー像も多様になってきているのではないのでしょうか。

川久保：ご自身の20代の頃と今とで、「リーダー像」に変化はありますか？

田 所：20代の頃は、リーダーは包容力があって、何でもテキパキとこなして…と理想像を描いていました。でも実際に事務所を継いでみると、悩むことも多かったです。先輩弁護士の方のお話を聞いたり、自己啓発本を読んだりする中で「人に頼ることも大事」「完璧じゃなくていい」といった言葉に励まされました。今は、「こうあるべき」ととらわれず、組織の中で何が必要か、どうすれば皆が働きやすくなるかを考えることが、リーダーとして大切なのかなと思っています。

【第5章】経営者・法務の専門家として伝えたいこと

川久保：中小企業の経営者の中には、身近に相談相手がいない方も多いと思います。どう支援していきたいとお考えですか？

田 所：私にできることは限られていますが、まずは弁護士に相談しやすい環境を整えることが大切だと思っています。一度相談に来てくださった方からの紹介で、別の方が来てくださることも多いので、一人ひとりに丁寧に向き合うことが、結果的に多くの方の支援につながると信じています。

川久保：相談しやすい環境づくりとして、具体的にどんな工夫をされていますか？

田 所：電話が苦手な方もいるので、WEBフォームから相談依頼のご連絡をしていただけるようにしました。また、知り合いやその紹介だと相談しやすいという声もあるので、私自身がネットワークを広げていくことも意識しています。顔を知ってもらうことで、敷居を下げられたらと思っています。

川久保：女性経営者や後継者にこそ伝えたい“備え”や“学び”はありますか？

田 所：どの企業にも大切にされてきた「社風」や「信念」があると思います。経営者や後継者は新しい要素を取り入れることも必要ですが、それと同時に、これまでの価値観をどう守るかのバランスも大切です。引き継ぐ前から、その企業が大切にしてきたことを知っておくことが、備えにも学びにもなると思います。

川久保：ご自身の経験から、「もっと早く知っておけばよかった」と思うことはありましたか？

田 所：父が先代だったので、家族で過ごす時間を通して父の考え方に触れる機会も多く、仕事のことで何か悩むことがあっても「父だったらどうしたかな」と想像して考えることはできていたかなと思います。ですので、そこまで「もっと早く知っておけば」と後悔することは少なかったです。ただ、学生時代に父から「社会勉強のために事務所に来てみたらいい」と言われていたのに、当時は他のことを優先していましたので、もっと事務所の雰囲気や父の仕事ぶりを見ておけば違ったか

なと思うことはあります。以前、父が行う尋問の傍聴をするために一緒に裁判所に行ったことがあって、そのとき父はとても嬉しそうでした。

川久保：法律家としてではなく、女性経営者として「大切にしている信条」はありますか？

田 所：一緒に働く人たちの「考え」や「大事にしていること」をできるだけ汲み取ろうと努めています。根っこの部分を理解できれば、信頼関係を築くうえで大きな助けになると思うからです。また、自分に非があると気づいたときは、素直に認めて謝ることも大切にしています。

【第6章】社外取締役として

川久保：金融機関の社外取締役という立場で、どんなことを意識されていますか？

田 所：法律家として、特にコンプライアンスには強く意識を向けています。2024年はコンプライアンス違反による企業倒産が過去最多だったというデータもありますし、社会的信用を守るためには、不祥事を未然に防ぐ体制づくりが重要です。仮に問題が起きたとしても、外部からのリークではなく、内部で発見・対応できる仕組みがあるかどうかで、社会からの受け止め方は大きく変わると思います。

川久保：経営に近い立場から見て、今の企業に必要なと感じる視点は何でしょうか？

田 所：今後AIの導入が進む中で、「AIを活用する力」の育成はもちろん、「人間にしかできないこと」や「AIでは思いつかない発想」の価値がより高まっていくと思います。また、システムが高度化するほど、セキュリティ対策も重要になります。最近では証券口座の乗っ取りなども問題になっていますが、AIの進化に伴って不正も巧妙化するでしょう。対策が後手に回らないよう、今のうちからしっかり備えることが必要だと感じています。



【第7章】これからについて

川久保：今後、個人として・弁護士として・地域の一員として、やってみたいことはありますか？

田 所：昨年、事務所のホームページを作成したことで、これまで当事務所を知らなかった方からも相談をいただく機会が増えました。WEBフォーム等で時間を気にせずお問合せや連絡をしていただけるようになったことや、取扱分野を明示したことで、安心して依頼していただける環境が整ってきたと感じています。

今後も時代の変化に柔軟に対応しながら、より良いサービスを届けられるよう、個人としての研鑽はもちろん、情報発信やコミュニケーションの工夫も続けていきたいです。

川久保：地域の女性リーダー、経営者として挑戦してみたいことはありますか？

田 所：これまでは事務所のことで手一杯でしたが、今後はもっと視野を広げて、地域の行事に参加したり、各地で行われている専門家の相談会に相談員として関わったりしてみたいです。そうした活動を通じて、自分の視野を広げながら地域にも貢献できたらと思っています。

川久保：地域で働く女性たちに、ひとこと贈るとしたら？

田 所：毎日、仕事や家事に追われている方も多いと思います。リモートワークやAIの普及で便利になった一方、仕事の密度が上がったり、プライベートとの境界が曖昧になったりと、新たな悩みも増えているように感じます。
だからこそ、ワークライフバランスを意識しながら、それぞれに合った方法で生き生きと過ごせる地域になってほしいと思います。私も微力ながら、その一助になれば嬉しいです。

川久保：最後に、これからの10年、どんなふうに歩んでいきたいですか？

田 所：人としての幅を広げて、もっと余裕を持てるようになりたいですね。今までは全力で突き進むことで何とか乗り越えてきたという感じでしたが、これからはもう少しどんと構えていけたらと。

これまでは多くの方に助けられてきましたが、今後の10年を通して、私が誰かの助けになれるような存在になれば、自分自身の成長も感じられると思います。

川久保：継承への覚悟、地域で働くこと、女性としての視点—どれも読者にとって、自分ごととして響く内容だったと思います。本日はたくさんのリアルなお話をありがとうございました。

【プロフィール】

松山市出身

愛媛県立松山東高等学校

京都大学法学部

同大学法科大学院

司法試験合格後、最高裁判所司法研修所司法修習を経て田所法律事務所入所
所長就任

令和6年6月より株式会社愛媛銀行社外取締役

愛媛県を中心に、個人・事業者等に関する民事事件全般を取り扱う

(事務所ホームページ <https://tadokoro-lawoffice.com/>)

趣味はピアノ（ドビュッシー、ラヴェルなど）、ウォーキング